

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクゲン フジダクイン 学校法人 藤田学院								
フリガナ大学の名称	トトリカノダガク 鳥取看護大学 (Tottori College of Nursing)								
大学本部の位置	鳥取県倉吉市福庭854番地								
大学の目的	鳥取看護大学は、教育基本法ならびに学校教育法に基づき、保健医療に関し、深く専門の学芸を研究教授し、豊かな教養と専門学術および職業に必要な能力を修得させ、学生が自らの人格を培うことを援助し、地域又は社会における保健医療及び福祉の向上に貢献する人材を育成するとともに看護学の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人の生き死にに誠実に向き合う堅固な倫理性と使命感を身につけ、専門的な知識や技術と科学的な思考にもとづく判断力を養い、他者（多職種）と協力して問題解決にあたる看護専門職として、地域に貢献する人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	看護学部 〔School of Nursing〕 看護学科 〔Department of Nursing〕  計	4年	80人	—年次人	320人	学士 (看護学)	平成27年4月 第1年次	鳥取県倉吉市福庭854番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	—								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学部看護学科	講義	演習	実験・実習	計				
		73科目	17科目	15科目	105科目	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	看護学部看護学科	教授 12人 (10)	准教授 7人 (6)	講師 — (—)	助教 11人 (11)	計 30人 (27)	助手 5人 (5)	兼任 41人 (21)
		計	12人 (10)	7人 (6)	— (—)	11人 (11)	30人 (27)	5人 (5)	41人 (21)
	既設		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
		計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
合計		12人 (10)	7人 (6)	— (—)	11人 (11)	30人 (27)	5人 (5)	41人 (21)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員	10人 (10)	0人 (0)		10人 (10)				
	技術職員	0 (0)	0 (0)		0 (0)				
	図書館専門職員	1 (1)	0 (0)		1 (1)				
	その他の職員	0 (0)	6 (6)		6 (6)				
計		11人 (11)	6人 (6)		17人 (17)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			鳥取短期大学と共用		
	校 舎 敷 地	4,241㎡	21,715㎡	0㎡	25,956㎡					
	運 動 場 用 地	0㎡	17,169㎡	0㎡	17,169㎡					
	小 計	4,241㎡	38,884㎡	0㎡	43,125㎡					
	そ の 他	0㎡	21,442㎡	0㎡	21,442㎡					
合 計	4,241㎡	60,326㎡	0㎡	64,567㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			鳥取短期大学と共用		
		6,245.73㎡ (6,245.73㎡)	3,396㎡ (3,396㎡)	8,245.5㎡ (8,245.5㎡)	17,887.23㎡ (17,887.23㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体 (情報処理学習施設 と語学演習施設は鳥 取短期大学と共用)		
	8室	4室	4室	1室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数			大学全体			
		看護学部看護学科		30 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	鳥取短期大学と共 用 (図書74,034冊、 学術雑誌65種、視 聴覚資料853点)		
	看護学部看護学科	5,273 [710] (4,473 [550])	27 [9] ( 27 [9] )	2 [2] ( 2 [2] )	166 (166)	5,200 (5,043)	25 (25)			
	計	5,273 [710] (4,473 [550])	27 [9] ( 27 [9] )	2 [2] ( 2 [2] )	166 (166)	5,200 (5043)	25 (25)			
図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
		1,343.97㎡		157	80,200					
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1,424㎡		テニスコート2面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費 (運用コスト含 む)を含む。
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円	—	—	
		共同研究費等		1,500千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	—	—	
		図書購入費	37,460千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	—	—	
		設備購入費	238,940千円	2,000千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	—	—	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,750千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、手数料収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	鳥取短期大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	平成17年4月改称  昭和54年4月改称  昭和48年4月、 平成18年4月改称
	生活学科 情報・経営専攻	年	人	年次 人	人	短期大学士	1.02	平成12年度	鳥取県倉吉市福庭 854番地	
	生活学科 住居・デザイン専攻	2	30	—	70	短期大学士	0.63	平成12年度		
	生活学科 食物栄養専攻	2	50	—	100	短期大学士	0.96	昭和48年度		
	幼児教育保育学科	2	145	—	265	短期大学士	1.11	昭和46年度		
国際文化交流学科	2	40	—	90	短期大学士	0.79	平成12年度			
附属施設の概要	該当なし									

## 学校法人藤田学院 設置認可等に関わる組織の移行表

平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由																																																																																							
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">鳥取短期大学</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">生活学科</td> <td style="text-align: center;">115</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">245</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">情報・経営専攻</td> <td style="text-align: center;">35</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">75</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">住居・デザイン専攻</td> <td style="text-align: center;">30</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">70</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">食物栄養専攻</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">幼児教育保育学科</td> <td style="text-align: center;">145</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">265</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">国際文化交流学科</td> <td style="text-align: center;">40</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">90</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">300</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">600</td> </tr> </table>				鳥取短期大学				生活学科	115	—	245	情報・経営専攻	35	—	75	住居・デザイン専攻	30	—	70	食物栄養専攻	50	—	100	幼児教育保育学科	145	—	265	国際文化交流学科	40	—	90	計	300	—	600	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">鳥取看護大学</td> <td style="text-align: center;">大学新設</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">看護学部 看護学科</td> <td style="text-align: center;">80</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">320</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">80</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">320</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">鳥取短期大学</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">生活学科</td> <td style="text-align: center;">115</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">230</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">情報・経営専攻</td> <td style="text-align: center;">35</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">70</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">住居・デザイン専攻</td> <td style="text-align: center;">30</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">60</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">食物栄養専攻</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">幼児教育保育学科</td> <td style="text-align: center;">145</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">290</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">国際文化交流学科</td> <td style="text-align: center;">40</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">80</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">300</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">600</td> <td></td> </tr> </table>					鳥取看護大学				大学新設	看護学部 看護学科	80	—	320		計	80	—	320		鳥取短期大学					生活学科	115	—	230		情報・経営専攻	35	—	70		住居・デザイン専攻	30	—	60		食物栄養専攻	50	—	100		幼児教育保育学科	145	—	290		国際文化交流学科	40	—	80		計	300	—	600	
鳥取短期大学																																																																																															
生活学科	115	—	245																																																																																												
情報・経営専攻	35	—	75																																																																																												
住居・デザイン専攻	30	—	70																																																																																												
食物栄養専攻	50	—	100																																																																																												
幼児教育保育学科	145	—	265																																																																																												
国際文化交流学科	40	—	90																																																																																												
計	300	—	600																																																																																												
鳥取看護大学				大学新設																																																																																											
看護学部 看護学科	80	—	320																																																																																												
計	80	—	320																																																																																												
鳥取短期大学																																																																																															
生活学科	115	—	230																																																																																												
情報・経営専攻	35	—	70																																																																																												
住居・デザイン専攻	30	—	60																																																																																												
食物栄養専攻	50	—	100																																																																																												
幼児教育保育学科	145	—	290																																																																																												
国際文化交流学科	40	—	80																																																																																												
計	300	—	600																																																																																												

教育課程等の概要

（看護学部看護学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎分野	学びの基礎	スタディスキル 日本語表現	1前 1前	1 2			○ ○			8 1	4					
	人文科学	人間学	1前	2			○			1						
		心理学	1・2・3・4前	2			○									兼1
		教育学	1・2・3・4前	2			○									兼1
		宗教学	1・2・3・4後	2			○			1						
		文学	4後	2			○			1						
	社会科学	日本国憲法	1・2・3・4前	2			○									兼1
		多文化共生論	4後	2			○									兼1
		山陰論	1後	2			○			3						兼5 オムニバス
	自然科学	化学	1前		1		○									兼1
住環境論		2・3・4前		2		○									兼1	
統計学		1前		2		○									兼1	
情報処理Ⅰ		1前	1				○								兼1	
情報処理Ⅱ		1後	1				○								兼1	
コミュニケーションスキル	日本語表現演習	1後	1				○		1							
	英語A（基礎英語）	1前	1				○								兼1	
	英語B（英文講読）	1後		1			○								兼1	
	英語C（英会話）	2前		1			○								兼1	
	中国語	1後		1			○								兼1	
	韓国語	1後		1			○								兼1	
	手話	2後	1				○								兼1	
健康	健康科学	1後		1		○									兼1	
	実践スポーツ	1前・後		1			○								兼2	
小計（24科目）			—	11	24	0	—	—	9	4	—	0	0	兼20	—	
専門支持分野	人体の構造と機能	生殖と倫理	2前	1			○								兼1	
		人体の構造と機能A	1前	1			○			1						
		人体の構造と機能B	1後	1			○			1						
		人体の構造と機能C	1前	1			○			2						
		人体の構造と機能D	1後	1			○			2						
		生物学	1前		1		○								兼1	
		代謝学・栄養学	2前	1			○								兼1	
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染免疫学	2前	1			○			1						
		薬理学	2後	1			○								兼1	
		看護病態学	2後	1			○								兼1	
		看護病態学演習	2後	1				○							兼1	
		疾病論A	2前	1			○								兼1	
疾病論B	2後	1			○								兼4 オムニバス			
こころの健康	発達心理学	1後	1			○								兼1		
	臨床心理学	1後	1			○								兼1		
	人間関係論	1前	1			○								兼1		
	ホスピタリティ論	1後		1			○							兼1		
地域社会と健康支援	公衆衛生学	1後	2			○				1						
	社会福祉・社会保障論	2後	2			○				1						
	人権論	2後		1		○								兼1		
	家族社会学	2後		1		○								兼1		
	コミュニティ論	2後	1			○				1						
小計（22科目）			—	20	4	0	—	—	2	2	—	0	0	兼16	—	

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎分野	基盤看護学	看護学概論	1前	2			○			1					
		看護倫理学	2前	1			○			1					
		基盤看護技術A	1前	1				○		3	1		2		
		基盤看護技術B	1後	2				○		3	1		2		
		基盤看護技術C	2前	2				○		3	1		2		
		基盤看護技術D	2後	2				○		3	1		2		
		生活健康論	1前	1			○			1					
		看護ケア論	1後	1			○			1					
		地域基礎看護学	1後	1			○			1					
		生活健康論実習	1前	1					○	3	1		2	1	
		フィールド体験実習	1後	1					○	4	2		4	1	
基盤看護学実習	2前	2					○	6	6		11	1			
小計（12科目）			—	17	0	0	—	—	7	6	—	11	1	0	—
専門実践分野	成人看護学	成人看護学概論	2前	1			○			1					
		成人看護学援助論A	2前	2			○			1					
		成人看護学援助論B	3前	2			○			1					
		成人看護学援助論C	3前	1			○								兼2
		成人看護学実習A	3後	2					○	1			4	2	オムニバス
		成人看護学実習B	3後	3					○	1			4	2	
	母子看護学	小児看護学概論	2前	2			○			1					
小児看護学援助論	3前	2			○			1							
小児看護学実習	3後	2					○	1			2	1			
母性看護学概論	2前	2			○			1							
母性看護学援助論	3前	2			○			1							
母性看護学実習	3後	2					○	1			1	1			
小計（12科目）			—	23	0	0	—	—	3	—	—	6	3	兼2	—
地域包括支援分野	地域包括支援看護学	老年看護学概論	2前	2			○			1					
		老年看護学援助論	3前	2			○			1					
		老年看護学実習	3後	2					○	1			1	1	
		精神看護学概論	3前	2			○			1					
		精神看護学援助論	3前	2			○			1					
		精神看護学実習	3後	2					○	1	1				
		在宅看護学概論	2後	2			○			1					
		在宅看護学援助論	3前	2			○			1					
		在宅看護学実習	4前	2					○	2					
		地域連携・協働支援論	3前	2			○			3	2				
		地域連携・協働実習	4前	1					○	4	5		2		
		地域密着型サービス実習	4前	1					○						
		地域の保健室論	3前	1			○			1					
		公衆衛生看護学概論	2後	2			○			1					
		疫学	3前	2			○				1				
小計（15科目）			—	27	0	0	—	—	6	6	—	3	1	0	—

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護統合分野	看護の統合と実践	看護活動と研究	3前	1			○			1					
		看護学統合研究	4通	2				○		8	7		7		
		家族看護学	2前	1			○			1					
		看護管理学	4後		1		○			1			1		
		看護教育学	4後		1		○				1				
		リスクマネジメント論	2後	1			○							兼1	
		リフレクション論と実践	2後	1			○			1					
		生活リハビリテーション論	3前		1		○								
		災害看護論	2後	1			○				1				
		国際看護論	3前		1		○							兼1	
		看護総合	4後	1			○			8	6				
看護学統合実習	4前	2					○	7	6		11				
小計（12科目）			—	10	4	0	—	—	9	7	—	11	0	兼3	—
保健師教育分野	公衆衛生看護学	保健統計学	2後		2		○							兼1	
		学校保健	3前		1		○							兼1	
		産業保健	3前		1		○				1				
		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	3前		3		○			1					
		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	4前		3		○				1				
		公衆衛生看護管理論	4前		1		○							兼1	
		公衆衛生看護活動展開論実習	4前		1				○		1		2		
公衆衛生看護管理論実習	4前		2				○		1		2				
小計（8科目）			—	0	14	0	—	—	1	2	—	2	0	兼3	—
合計（105科目）			—	108	46	0	—	—	12	7	—	11	5	兼41	—
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
基礎分野では必修科目11単位及び選択必修科目2単位を含む24単位以上、専門支持分野では選択科目2単位を含む22単位以上、専門基礎分野では必修科目17単位、専門実践分野では必修科目23単位、地域包括支援分野では必修科目27単位、看護統合分野では選択科目1単位を含む11単位以上を修得し、合計124単位以上習得していること。 保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件（124単位）の他に、保健師教育分野の科目の全て（14単位）を習得すること。なお、「保健統計学」「学校保健」「産業保健」は保健師資格を希望しない者も履修することができる。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学びの基礎	スタディスキル	大学生として必要な「知の技法」を身につける。大学での学び方（授業の受け方、ノートテイキング、資料の整理など）、図書館やインターネットを利用した文献検索や情報収集の方法、発表や討議の仕方を学ぶ。これらの学びを通して、学びの意義を理解して看護職として生涯学び続ける意識を確立し、大学において目的意識を明確にして主体的に学ぶ姿勢を身につける。専任教員が授業を担当し、少人数グループ形式で具体的な課題に取り組む。	
	日本語表現	論理的でわかりやすい文章を書いたり、文章の内容を効率的に読み取ったりするために必要な知識、技能を学ぶ。また、読み取った内容を適切に要約する能力を高める。社会人として必要な敬語や、礼儀にかなった手紙、電子メールの書き方についても学ぶ。これらの学びを通して、読み書き能力が読み手を思いやる想像力と密接に関連していることを理解し、他者と連携する職業人として円滑な人間関係を構築するための能力を身につける。	
基礎分野	人間学	「人間とは何か」、「人間はどう生きどう死ぬべきか」という問いは、古来から今日にいたるまで問いつづけられてきた永遠の問題である。授業では、「人間とは何か」「人生いかに生きるべきか」「人生の意味とは何か」「死にどう向き合うか」について自分自身で考えるための手がかりとなるような、いくつかの人間観・人生観・価値観について学ぶ。授業をとおして自分自身と自分の人生についてふり返り、これからの自己形成・人生形成のヒントを理解する。	
	心理学	人間の心理や行動を科学的にとらえる心理学の考え方を身につけ、これらを客観的に理解する理論と方法を学習する。知覚、記憶、認知、感情、動機づけ、パーソナリティ、学習などの基礎的理論をその根拠となった実証データに基づいて理解する。そこで、実験法や観察法、調査法、面接法など心理的事象を解明する研究法についても学習する。さらに、こうした理論や概念を日常生活の具体的な事例と関連づけて、応用心理学からの観点による理解を深める。	
	教育学	教育の理念と目的および家庭、学校、社会それぞれでの教育の特質と役割を概説した後、主として学校教育について学習する。教育史と結びつけながら教育、学校、授業に関する基本的概念を学ぶことにより、教育一般についての知識を深め、教育への関心を高める。さらに、教育制度、教育課程、学習指導と生活指導、特別支援教育、教育評価、現代の教育の現状と課題などについて学び、教育の理念を実現するために自ら問題解決を考察できる能力を養う。	
人文科学			

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	人文科学	宗教学	人類が存在するところには宗教が存在する。宗教を持たない文化は存在しない。宗教とは何か、なぜ人間は宗教をもつのか。宗教の様々な側面、宗教と風土の関係、宗教と科学の関係、諸宗教がもつ死後観・霊魂観、宗教体験とは何か、シャーマンとは何者か。宗教的な生き方とはどういう生き方なのか。人生の意味とは何か。死に直面したとき人はどのようにその死を受容するのか。宗教哲学的人間学の立場から、人間と宗教の関係について考察する。
		文学	平安鎌倉時代の古典文学作品の読解を行う。古典文学に描かれた人間についての表現の多様性と豊かさ、面白さに触れることで、自らの感性を磨き、これからの人生をより豊かに生きていくための素地を身につける。さらに、作品に登場する人物の生き方や考え方を理解することを通して人の生命、死生観、人間関係についての理解を深め、自分を見つめなおすとともに、他者を理解するための想像力をきたえることもめざす。
	社会科学	日本国憲法	ヨーロッパにおいて近代国家がなぜ立憲主義の枠組みをとるようになったのか、その歴史をふり返り、立憲主義の理念にもとづいて、そもそも憲法とは何か、日本国憲法の位置づけと憲法の持つ意味を理解する。日本国憲法がどのような経緯で制定され、また各事項がなぜそのように規定されるに至ったのかを見ていき、国民の基本的な権利、国会・内閣・裁判所・地方自治などの統治機能について、それぞれの位置づけを明らかにする。
		多文化共生論	異文化との接触・交流は、いまや日本の山陰においても、避けられない現状となっている。多文化共生とは、国籍や民族の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築き、共に生きることである。世界の色々な地域で、異なった民族、異なった文化、異なった考え方の人々がどのような問題を抱えているかを知り、その問題の背景にある要因について探る。そして彼らが互いに共存しようとするその試みについて学び、私たちが住んでいるこの地域における異文化交流の課題や、今後の可能性について考察する。



授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	社会科学	<p>世界中に情報が行きわたり、地球上の経済・社会のグローバル化が進行している。その反面、それぞれの地域の固有な文化が見直されている。自分が住んでいる地域がどのような自然環境にあり、どのような歴史を経て今のような地域になっているのか、そうした地域の特性を踏まえたうえで、地域を理解し、どのような地域貢献ができるのか、自分の人生設計を鑑みながら、山陰という地域の現状と課題を見ていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 荒井優 (コーディネーター) / 1回) 科目「山陰論」についてのオリエンテーションを行い、山陰を日本の多神教的風土の代表として位置づけ、若干の導入的講義を行う。学生の評点はコーディネーターが行う。</p> <p>(40 新名阿津子 / 2回) 地理学の視点から、山陰とくに鳥取県の地質や風土、文化について注目する。</p> <p>(41 多羅尾整治 / 2回) 『古事記』に記された山陰 (出雲) の神話の物語とその意味について考える。</p> <p>(42 喜多村理子 / 2回) 民俗学の視点から、日本とくに山陰の生活習慣や身体観について明らかにする。</p> <p>(32 山田修平 / 2回) 日本のなかでも山陰における福祉の特徴について目を向ける。</p> <p>(43 伊藤康 / 2回) 日本の近代史の視点から、近代山陰における特徴的な出来事に注目し、それがどのように現代の山陰に繋がっているのかを見る。</p> <p>(11 土居裕美子 / 2回) 文学の視点から、山陰を舞台とした古典文学 (説話を含む) を紹介し概説する。</p> <p>(7 矢倉紀子 / 2回) 看護師・保健師の視点から、山陰の地域看護の特性について考える。</p>	オムニバス方式
		自然科学	<p>化学は物質の構造、性質、反応を対象とする学問であり、現在では応用分野が広く、生活や環境に関連した物質や現象を理解するためにも重要である。この講義では、主として生命を支える物質の化学的知見を習得することを目的とする。無機物質の化学的性質と化学反応および生化学や栄養学を学ぶための基礎となる有機物質について学習を深め、知識を確かなものにする。また、生命活動が化学反応や化学物質によって説明されることについて理解を深める。</p>
	社会科学	<p>住環境は居住者が健康な生活を維持するために必要な場を提供しており、福祉と密接な関係にある。講義では現代日本の住居の特徴を建築学の観点から学習した上で、バリアフリーやユニバーサルデザインを取り入れた福祉住環境の視点で設計された住環境を理解する。在宅看護や介護に関わる建築の設計、設備やインテリアの整備について幅広い知識を学ぶことを目的とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	自然科学	統計学	記述統計学および推測統計学の基本的な概念を理解し、科学的に現象を判断するために有効な統計技法を身につけ、医療の場面でその知識を応用する態度と能力を養うことを目的とする。母集団と標本、データの要約・統計的処理、仮説検定など統計学の基本事項について学習する。既存の統計解析ソフトウェアを利用する方法についても理解を深める。また、医療、保健衛生に関わる例題を用いてデータを妥当に解釈し活用できる実践的な能力を養う。	
		情報処理Ⅰ	学生生活、社会生活で必要な情報処理能力(コンピュータ・リテラシ)を獲得することを目的としている。オフィスソフトであるワードプロセッサ、表計算およびプレゼンテーションの各ソフトの演習を通してコンピュータの知識と操作法を習得する。また、ネットワークを利用する基本技術と知識を学習し、電子メールの送受信やインターネットを利用した情報収集についても習熟する。職場での利用を想定した実践的課題を設定し、これを解決する方法を学ぶ。	
		情報処理Ⅱ	表計算ソフトウェアおよび統計ソフトウェアの利用方法について習熟し、データを統計的に解析するスキルを習得する。保健統計の具体的事例に基づいて演習形式で学習をすすめる。代表値の算出やグラフ作成、データ間の関連性や有意差の仮説検定などについて理解を深める。こうした演習を通じて看護、保健の諸課題を的確に判断し、解決をすすめる能力を高める。また、電子カルテなど病院の情報システムの機能やネットワークを利用した地域の看護情報の検索、収集を学ぶ。	
	コミュニケーションスキル	日本語表現演習	1年次前期の「スタディスキル」および「日本語表現」で行った内容を発展させ、口頭表現と文章表現のさらなる技能向上をめざす。敬語の復習、自己紹介から始まり、説明やプレゼンテーション、質問や意見交換といった口頭表現の基礎から応用に至る様々な課題に演習形式で取り組む。授業は2クラスに分割して行い、より個々の学生の技能を向上させる。	
		英語A（基礎英語）	発音、語彙、構文の全分野にわたり、高校までの英語の総復習を行う。英語を苦手とする学生はもちろん、そうでない学生も、実社会で必要とされる英語力の土台を固めることをめざす。授業は、主として「話す・聴く」能力の伸長をめざすクラスと、主として「読む・書く」能力の伸長をめざすクラスに分けて行う。前者のクラスでは、ネイティブスピーカーの教師による、シチュエーションごとの会話演習を行い、後者のクラスでは、文化に関する英文の講読を行うことで英語力を高める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	コミュニケーションスキル	英語B（英文講読）	英語で書かれた文献の講読を通して、語彙、構文を習得して英文読解能力の向上をめざす。取り上げる文献は、エッセイ、短篇小説、論説文の他、看護に関する短い学術論文（数ページ）を含む。辞書を効果的に利用する力、パラグラフの内容を的確に把握する力を身につけ、インターネットや雑誌等に見られる英文の情報に効率よくアクセスできる能力を高める。	
		英語C（英会話）	英語によるスピーチやプレゼンテーション、意見交換ができるようになることをめざす。ネイティブスピーカーによる授業を行う。まず、英語によるコミュニケーションを行ううえで重要な概念（ジェスチャー、アイコンタクト等）を理解し、日常生活でよくある状況からはじめ、時事問題など具体的なテーマについて会話の演習を行う。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、間違えることを恐れない環境を作ることによって学生が互いに刺激しあい、能力を高めていく。	
		中国語	外交レベルでは種々の問題を抱えつつも、民間レベルでは盛んに交流が行われているアジアの隣国の言語として中国語を学ぶことは、国際化が進む看護の現場においても意義深いものがある。この授業では中国語の発音に慣れ、基礎的な文法を身につけ、自己紹介や、簡単な会話ができるようになることをめざす。歌や映画などを教材に取り入れ、また中国の文化や生活習慣も紹介し、中国語を学ぶ楽しさを実感し学びを深める。	
		韓国語	外交レベルでは種々の問題を抱えつつも、民間レベルでは盛んに交流が行われているアジアの隣国の言語として韓国語を学ぶことは、国際化が進む看護の現場においても意義深いものがある。この授業ではハングルの読み書きや基礎的な文法を習得して基本的な会話ができるようになることをめざす。同時に異文化としての韓国文化を理解するための基本的な能力を身につける。韓国の文化事情の紹介を随時取り入れ、楽しく学びを深める。	
		手話	看護の現場では多様な患者に接する可能性がある。特に鳥取県では平成25年10月に「鳥取県手話言語条例」が施行され、手話は言語のひとつであり、独自の体系を有する文化的所産であると認識している。このことを踏まえ、本科目では手話を母語とする聴覚障がい者についての理解を深め、手話による挨拶や日常会話などの基本的なコミュニケーション能力を身につける。さらに看護の現場で必要になることが想定される手話コミュニケーションについても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	健康	健康科学	健康と運動との関連について関心を高め理解を深め、健康の保持増進のために積極的に実践する姿勢を身につける。また、各年齢期の運動発達や体力特性を理解し、健康生活への運動の役割についてより専門的に考えられるようにする。学生自身が自分の身体状態や体力レベルについて認識を深め、その時々に適した運動は何かを判断できるようになることをめざす。
		実践スポーツ	各種球技やニュースポーツなど、何種目か提供されるスポーツ・レクリエーション活動の中から、各自の興味関心に従って種目を選択し、技術やルールを学び、楽しみ方を知る。技術のトレーニングや技術・戦術的なアドバイスをを行った後に、学生の主体的な運営で試合やゲームを実施する。こうした活動を通して、健康で豊かな生活における運動の意義や価値について認識を深め、生涯スポーツの取り組みの第一歩とする。また、学生相互の人間関係を深めるとともに、集団内における個人の役割について理解する。
専門支持分野	人体の構造と機能	生殖と倫理	倫理は人と人とのあいだの理（ことわり）である。看護は、人間関係の中でなされるものであり、まさしく倫理が問われる現場となる。現代医療・現代看護の現場には医療技術の発展に伴う様々な倫理的問題が発生している。そして、医療関係者として、その現場にふさわしい態度・行動をとることができるよう、豊かな人間性が求められる。本科目では、生殖技術、代理出産、出生前診断など、とくに生殖・出産にかかわる医療現場で生じる倫理的問題について概説し、生命の倫理、生命の尊厳について考える。
		人体の構造と機能A	看護の対象となるヒトの身体を理解するために、看護専門分野で学ぼうとする内容の基礎となる、人体の正常な構造（解剖学）と機能（生理学）を学習する。 本科目では、解剖・生理学の基礎となる化学・生物学的事項を概説したうえで、人体の基本構造（細胞、組織）と生体の調節機能（ホメオスターシス、体温など）について解説し、看護の対象の病態生理や看護の実践に役立てられるように動機付ける。さらに、骨格系の構造と機能を、模型標本を使った演習を通してヒトの身体を理解する。
		人体の構造と機能B	看護の対象となるヒトの身体を理解するために、看護専門分野で学ぼうとする内容の基礎となる、人体の正常な構造（解剖学）と機能（生理学）を学習する。また、一個の受精卵からヒトが形成されるまでの過程（発生学）についても学ぶ。 本科目では、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系について、それぞれの器官系を構成する器官の構造と機能を解説し、病態の理解や看護の実践に役立てる。模型標本や画像等を用い、主要器官の位置・形態、および各器官の間の連絡を三次元的に理解できる。また、一個の受精卵からヒトが形成されるまでの過程（発生学）についても学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門支持分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能C 看護の対象となるヒトの身体を理解するために、看護専門分野で学ぼうとする内容の基礎となる、人体の正常な構造（解剖学）と機能（生理学）を学習する。 本科目では、筋系、循環器系、呼吸器系の構造と機能について解説し、病態の理解や看護の実践に役立てる。さらに、演習を取り入れながら、筋電図、心電図についての理解を深める。	
		人体の構造と機能D 看護の対象となるヒトの身体を理解するために、看護専門分野で学ぼうとする内容の基礎となる、人体の正常な構造（解剖学）と機能（生理学）を学習する。 本科目では、リンパ系、免疫系、造血器系、神経系、感覚器系について、それぞれの器官系を構成する器官の構造と機能を解説し、病態の理解や看護の実践に役立てる。模型標本や画像等を用い、主要器官の位置・形態、および各器官間の連絡を三次元的に理解を深める。	
		生物学 生物体の構造や有機的に関連している様々な生体事象は複雑かつ巧妙に機能している。この講義では生物学の基礎を学び、細胞レベル、個体レベルでの生物が示す生命現象に対する理解を深める。生命体のあり方の概要を学ぶとともに生体分子、細胞、遺伝、免疫、人体の構造などについての基本的な概念、専門用語、法則を習得し、医療現場で必要となる知識を確立することを目標とする。また、進展が著しい最先端の研究成果や応用分野についても学習を深める。	
		代謝学・栄養学 人体の構造と機能で学んだ知識を関連させながら総合的に学習することにより、人間の健康と栄養・代謝について基本的な考え方を理解する。また、栄養学では栄養学の基本理念と意義、健康を支える栄養素の働きを理解する。代謝学では、生態の基本単位である細胞の機能について学び、固体の代謝調節機能と栄養成分である糖質・脂質・タンパク質・アミノ酸・ビタミン・ミネラルなどとの関連性を学習する。さらに、生態の恒常性と代謝調節との関連性についても学習する。	
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染免疫学 感染症は現在も医療の重要課題である。院内感染制御や感染症の対策や予防を、明確な根拠を持って実践できる看護師の育成をめざして、微生物という生命体を理解した上で、感染症の症状、治療を学ぶと共に、生体の重要な防御機構である免疫学、その応用、感染予防方法の原理を理解し、臨床応用できる能力の基礎を形成する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 支持 分野	疾病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	薬理学	薬と生体との相互作用の結果起こる現象とその機構など、薬物療法の基礎となる薬理学を学ぶ。 多種類の薬をその作用する部位によって分類し、その作用の特徴と薬の作用ならびに副作用が発現する機構についての知識を的確に理解し、より適切な医療に役立つ力を養う。 総論的に薬と生体のかかわりについて理解することを目的とする。
		看護病態学	病気とはなにか、病が起こっている体の状態を学び、病の起きるメカニズムを理解する。看護をめざす学生が、論理的な思考の下に、病を持つ人の看護を実践できるよう導く。その際、健康な人の形態・組織の状態の知識を元に、その状態がどのように破綻しているのか、またその状態に対し、人はどのように反応するのか、その機能の関連のもとに解析する知識と考察力を養う。高度な判断力が要求される看護という仕事に必要な思考力を身に着けることをめざす。
		看護病態学演習	看護病態学で学んだ、正常と病が起こっている状態のからだを理解するための基礎知識について、演習を通して体験することで確実な知識として蓄えることを目的とする。各臓器の正常組織および病理組織の顕微鏡観察で組織レベルでの疾病理解を深めるとともに、人の健康を見る指標として重要となるバイタルサイン、看護ケアで理解しておきたい身体感覚について実験的な要素を取り入れた演習で理解を深める。
		疾病論A	看護の実践力を身につけることを目標とし、「人体の構造と機能領域（からだ理解）」で学んだ知識を基礎にして、適切な看護実践を可能にするために必要とされる各疾病の病態生理、症状、診断、治療、予防等について学ぶ。 本科目では、内科領域の疾病について器官系別に代表的な疾病をあげ、それらの病態生理、症状、診断、治療、予防等について学ぶ。また、外科領域全般における病態生理ならびに疾病の成り立ちと治療、回復過程について学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 支 持 分 野	疾病の成り立ちと回復の促進	<p>看護の実践力を身につけることを目標とし、「人体の構造と機能領域（からだ理解）」で学んだ知識を基礎として、適切な看護実践を可能にするために必要とされる各疾病の病態生理、症状、診断、治療、予防等について学ぶ。</p> <p>ヒトのライフサイクルの各期における身体的（構造的・機能的）および精神的特徴を理解するとともに、小児系、母性系、老年系、精神系の各分野に特徴的な疾病について、その発生機序、病態、診断・治療の実際を理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全 1 5 回）                      (56 西川健一／4 回) 小児期の構造的・機能的特徴をふまえ、小児系の代表的な疾病の概要と診断・治療について理解を深める。                      (57 濱吉麻里／4 回) 女性の構造的・機能的特徴をふまえ、妊娠・分娩の異常、胎児・新生児の異常について、その病態生理、診断・治療について理解を深める。                      (58 瀧川みき／3 回) 加齢による構造的・機能的な変化の理解をもとに、高齢者に特有な代表的な疾病の概要と診断・治療について理解を深める。                      (59 前田和久／4 回) 「疾病論 B」のオリエンテーションを行い、本科目の導入となるヒトのライフサイクルについての概略を講義する。また、コーディネーターとして学生の評点を行う。</p> <p>代表的な精神疾患について、それぞれの特徴、発生・経過・予後などについて概説し、また、それらの予防と早期発見、治療について理解を深める。</p>	オムニバス方式
		<p>人間の心理的な発達の特徴を心理学の知見を背景として理解し、その知識を看護場面で応用できることを目的とする。講義では発達に関する基本的な概念や諸要因について学ぶとともに、生涯発達の観点から受胎から高齢期までの各発達段階における認知、感情、パーソナリティ、社会性などについて変化を学習する。また、心理的機能の形成・維持が妨げられる問題や発達課題について学び、発達上の諸問題に対して支援を行う知識と方法について理解を深める。</p>	
		<p>心や行動の適応上の問題に対して心理的な援助を行う基本的な知識や技法を習得することを目的としている。クライエント中心療法、精神分析学、行動療法、認知行動療法、家族療法など臨床心理学の基本的諸理論を学習するとともに、心理や行動を多面的に理解する態度を養う。また、心理アセスメントを行うためのデータ収集の方法を学ぶ。さらに、看護場面で心理的問題に向き合えるよう複数の援助方法について具体的な援助場面を通して学び、相談に寄り添える力を向上する。</p>	
	こころの健康	<p>社会心理学の基礎的知識の学習に基づいて、看護の人間関係に必要な考え方と方法を身につける。対人認知、コミュニケーション行動、個人間の協力や対立、集団が人々の行動に与える影響などについて学ぶ。グループワークを通して自己の人間関係に対する理解を深めるとともに、他者と向き合う力を養成する。また、他者との関わりを通じて集団で協働する意義を認識する。さらに、看護における人間関係の具体的な課題について学びを深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 支持 分野	こころの健康	ホスピタリティ論	<p>看護師に求められるのは、看護学の知識や技術を学ぶだけではない。患者の心に寄り添い、患者にどう向き合うか、そこに看護の出発点がある。人が人を思いやり、寄り添う人間関係が基本にあることによって、看護はその力を発揮する。ホスピタリティとは何か、ホスピタリティはなぜ必要なのか。看護や介護、病院といった狭い人間関係に限定せず、日常生活の様々な場面を想定して、ホスピタリティ・マインドのポイントとその技法を学ぶ。</p>
	地域社会と健康支援	公衆衛生学	<p>生命と生活を築き、これを守る基本を理解する。公衆衛生学は、人々の生命と生活を築き、またこれを守るための学問である。したがって、疾病の治療のみでなく、積極的な健康増進に到る広い範囲を包含する。公衆衛生を推進することは、憲法第25条に定められていることであり、行政の役割や関係する法規・制度を理解する必要がある。本科目では、看護師および保健師に必要な公衆衛生学の意義と目的、歴史とともに、人々の健康状況の動向および疾病予防や健康増進対策について理解するために、保健統計、疫学調査の方法、また、保健、医療、福祉等についての基礎的なことに加えて、地域保健、学校保健、産業保健さらに、地球規模の環境問題についても理解を深める。</p>
		社会福祉・社会保障論	<p>社会保障・社会福祉に関して看護師・保健師が必要とする基礎知識の習得をめざし、身近な問題として実感しながら学ぶ。</p> <p>社会福祉の対象は、高齢者、障がい者、生活困窮者等の救済を目的としていた時代から、国民一人ひとりの「幸福」と、人として尊重された社会の実現にむけた福祉へと転換されてきている。本講義では、その時代背景と理念の変遷を知り、そして、年金や医療の社会保障、社会福祉や保健、医療、教育等から成る現行の社会保障制度の実態や諸課題について理解する。社会福祉とは、人々の暮らしや命を守るための実践であることを事例と共に知り、その実践方法を考える力を培う事をめざす。</p>
		人権論	<p>人間の存在、人間が生まれながらに持っている権利を保障するものとして、「人権」という概念が近代に生まれた。その概念と内容は、時代の変遷とともに進化・発展している。現代における「人権」の基本的な内容について理解する。その上で、今日、実生活上で起きている様々な人権侵害と人権救済について、人権問題やその判例を取り上げながら理解を深め、人権の法規範性ととも社会規範性の両面から人権の保障と確立に向けて、学生自ら何ができるかについて考える。</p>
		家族社会学	<p>看護師や保健師は、その実践の中で、様々な家族の役割と背景を持つ人々と出会う。家族社会学では、集団としての家族とその形態や機能、それに伴う様々な課題を把握し学ぶ事を目的とする。</p> <p>現代日本において、様々な新しい家族をめぐる現象がみられる。家族形態をみると、事実婚の増加、共働き夫婦の増加、単身赴任家族、独居高齢者など、多種多様に変化している。このような多様な家族変動とともに、日本では多様な課題が顕在化している。家庭内暴力、育児放棄、虐待、親殺し、高齢化に伴う介護問題、老々介護、孤独死、自殺など、現代の「病理」とも呼ばれる現象がある。こうした現象の原因・背景を探ると共に、これからの家族のあり方について考える。</p>



授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 支持 分野	地域 社会 と 健康 支援	コミュニティ論  都市化・過疎化、少子・高齢化、グローバル化、また情報化など、社会変化が大きく進行する中で、コミュニティのあり方も大きく変わろうとしている。そのような変化の中にあるコミュニティの現実がいかなるものであるのか、また、その抱えている課題はどのようなものであるのかを学び、そこから、今後のコミュニティのあるべき姿を考察する。 さらに、コミュニティが地域に暮らす人々の健康増進、疾病予防にどのように関連しているのかを学び、コミュニティにおける関係組織を知り、連携や協働のあり方を考察する中で、「人間」「地域」「生活」が一体化するために看護師・保健師など専門職者が果たすべき役割を知る。		
		看護学概論  看護を社会的な流れの中で理解するために、国内の看護の歴史的な変遷を学ぶとともに、近年にクローズアップされている国民の健康ニーズと看護制度の概要を把握する。 また、国外の看護の歴史的な変遷を学ぶとともに、看護の実践を支える「人間」「健康」「環境」「生活」「看護」の概念を看護の諸理論から把握する。 さらにケアの社会化の背景を理解し、看護専門職としてのケアのあり方とケアの継続について学び看護の目的・機能を学ぶとともに、ヒューマンケアを実現するための基本姿勢について学びを深める。		
専門 分野	専門 基礎 分野	基盤 看護 学	看護倫理学  看護実践は倫理的判断の連続と言われているが、倫理に関する基礎的な理論を理解するとともに、看護学生が実習するにあたって必要な倫理について学ぶことを目的とする。 プライバシーと守秘義務、知る権利とインフォームド・コンセント、拘束などに関連する事例の検討を通し、倫理的な視点と倫理原則について学ぶとともに、対象の尊厳を守るための看護者としての倫理的判断について理解する。その過程で、倫理的な問題に気づき、倫理的な視点で判断する力を身につけるために、根拠を明確にして自分の見解を述べる力とともに、自分とは異なる価値観を尊重する態度を修得する。	
			基盤看護技術A  人々の健康と深く関連する日常生活行動の意義を、「からだ」「こころ」「社会」の側面から理解し、事例を通して看護の視点から援助の必要性を見出す能力を養う。 さらに、基礎的な生活援助技術の科学的根拠を踏まえ、安全・安楽かつ効率的な援助方法を探求する。同時に、援助の原理原則を学びながら、援助方法の多様性を知る。各単元の援助の原理原則を学ぶ中で、リフレクションを通して援助内容を極めていく。	
			基盤看護技術B  基盤看護技術A（生活援助）と同じく、人々の健康と深く関連する日常生活行動の意義を、「からだ」「こころ」「社会」の側面から理解し、事例を通して看護の視点から援助の必要性を見出す能力を養う。 さらに、基礎的な生活援助技術の科学的根拠を踏まえ、安全・安楽かつ効率的な援助方法を探求する。同時に、援助の原理原則を学びながら、援助方法の多様性を認識する。各単元の援助の原理原則を学ぶ中で、リフレクションを通して思考し、実践できる力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部看護学科）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	専門基礎分野	基盤看護学	<p>健康に問題を持つ人に行われる看護技術の原理・原則を理解し、その技術を安全・安楽に適用する方法とその実際について演習を通して学ぶ。</p> <p>特に、診療時の看護、検査時の看護、薬物療法時の看護といった健康問題を持つ人々が診療を受けることにかかわる看護技術を実践するために必要な知識と技術、そして技術の実際について原理・原則を理解する。また、診療を受ける対象者の身体的、心理的、社会的影響を理解し、対象者の安全・安楽を基盤とした援助の在り方について考える姿勢を養う。</p>	
			<p>基盤看護技術C（治療援助）と同じく、健康に問題を持つ人に行われる看護技術の原理・原則を理解し、その技術を安全・安楽に適用する方法とその実際について演習を通して学ぶ。</p> <p>さらに、看護の対象となる人びとを包括的に理解することを基盤とし、看護を展開していく上で必要となる基礎的知識と思考過程を学び、思考する力を培う。また、正常な人の身体を理解し、生活することと関連した身体の状態について理解を深め、対象の身体に接近し、視る技術、聴く技術、触れる技術、コミュニケーション技術などを用いて、様々な情報を見出していく看護の技術について学ぶ。</p>	
			<p>健康に関する人々のイメージおよび代表的な健康の定義を知るとともに、自らの健康観を明らかにする。さらに、生活に関する諸理論を学ぶとともに、看護の立場からの生活の視点を探求していく。</p> <p>また、自分自身の「健康観」「生活観」を構築し、看護援助の一助になることを目標とする。「身体的に違和感がなく、安寧・情緒の安定を伴った生活行動がとれ、その過程でより高次の価値追求、ないしは、自己実現ができる条件が整った日々の暮らし」という生活の概念の中で、看護の立場からの生活支援の視点を育成する。</p>	
			<p>人びとの暮らしの変遷を概観する中で、広く、社会の中で培われたケアの意味を追求する。</p> <p>少子高齢社会および高度医療が進む現状において、暮らしの中で問われているケアの実際と、ケアの要素を探求し、日常のケアを実感する。さらに、ケアの社会化の背景を踏まえながら、看護ケアとは何かを学び、看護の本質を探究する姿勢を培う。</p>	
			<p>いかなる生活の場においても、いかなるライフステージ・健康レベルにあっても、全ての人びとの健康は守られていることを理解する。さらに、地域看護とは公衆衛生を基盤にした看護活動であることを理解する。</p> <p>学生自身を取り巻く環境や経験から“健康を支える”とはどのようなことか考え、人びとの健康を支えるために、人びとのもっている力を引き出しながら生活を基盤にして展開される地域看護活動の基礎について学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎分野	基盤 看護学	生活健康論実習	地域で生活する身近な人びとの生活の場に身を置き、人びとの生活やその社会に向き合い、人びとの生活のしかた、行動、その中に潜んでいる考え方、健康に対する意識を理解する。さらに、自己の具体的な体験と比較検討し、自己の生活観や健康観を深める。
		フィールド体験実習	健康づくりに関連した活動を行っている集団や組織とその参加者に向き合い、ウェルネス社会やヘルスプロモーションについての理解を深める。 地域に、健康づくりに関連した活動を行っている集団や組織があることを知る。その集団や組織の活動に参加し、活動内容を理解し、地域の中におけるヘルスプロモーションの意味を理解する。集団・組織や参加者、支援者の相互作用が健康づくりを支える環境となることを理解する。 自己の学習課題に応じて、健康づくりに関連した集団・組織を選定し健康づくり活動に参加しながら、参加者と支援者両面からヘルスプロモーションについて考察する。
		基盤看護学実習	看護とは何か、人が病を生きるということはどういうことかといった看護を学ぶ上での問いに向き合う。さらに、入院し病を体験している人に向き合い、心身の状態や生活の場である療養環境についての理解を深め、包括的に対象者を理解する基盤や姿勢を養う。 また、療養生活が療養者の「からだ」「こころ」「社会」に与える影響を理解し、必要な日常生活援助を見出す。そして、療養者の安全・安楽を考慮しながら日常生活援助の実施、および自己の関わりについてのリフレクションを行うことで、課題を見出し、看護者としての姿勢やあり方について考察する。さらに、病院の機能、医療の場で働く看護職、および他職種の専門職としての役割を理解する。
専門 実践分野	成人 看護学	成人看護学概論	ライフサイクルにおける成人の特徴・健康問題をとらえながら、健康レベルに応じた看護活動を理解する。さらに成人を対象とする看護においてよく用いられる概念、理論を概観するとともに、成人看護学の目的、看護の対象、特徴を学習する。
		成人看護学援助論A	成人期に特有な急性の健康問題と特有な看護援助について、クリティカルケアを必要とする人、周手術期にある人の健康レベルの特徴をふまえて学ぶ。また、急性期から生活を構築していく、あるいは再調整していく看護について、リハビリテーションという概念に基づいて学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	成人看護学	成人看護学援助論B 成人期にある特有な健康問題のうち、慢性期の健康障害と病いと共に生きる人の体験を理解し、ケアリングの考えを基盤にした看護援助について学ぶ。 慢性期にある人の病気の体験や看護アセスメントから健康障害による身体の変化を理解する。生活習慣病や難病など慢性疾患の人の健康の回復・苦痛への看護援助の理論と実践を理解する。さらに、成人期にある人の健康の増進、生活習慣病の予防への看護援助の理論と実践を理解する。	
		成人看護学援助論C 成人期にある特有な健康問題のうち、終末期の健康障害と病いと共に生きる人の体験を理解し、ケアリングの考えを基盤にした看護援助について学ぶ。  (オムニバス方式/全8回) (㊟ 堀江千恵(コーディネーター) / 1回) 「成人看護学援助論C」のオリエンテーションを行い、本科目の導入となる終末期ケアの概略を把握する。本科目のコーディネーターとしての履修生の評点を行う。 (㊟ 堀江千恵 / 3回) 終末期にある人の病気の体験、および看護アセスメントから健康障害による身体の変化を理解し、特に、身体的苦痛の緩和の援助を学ぶ。 (㊟ 山崎美沙 / 4回) 終末期にある人の精神的苦痛の理解に迫り、精神的・心理的緩和ケアの実践を学ぶ。併せて、家族の支援のあり方を学ぶ。	オムニバス方式
		成人看護学実習A 急性期・周手術期にある成人期の患者とその家族の健康上の問題を理解し、問題を解決するための看護援助を主体的に考え、実践できる能力を養う。看護を展開していく中で、患者とその家族の個別性を理解し、変化に応じた看護援助のあり方を考え、看護を創造し発展できる力を養う。さらに保健医療チームにおける看護の役割を学ぶとともに自己の看護観を発展させる。 集中的管理・治療・ケアを必要とする対象の急性期の看護や特殊な環境下に置かれた患者の心理・看護について学ぶ。	
		成人看護学実習B 慢性期・回復期・終末期にある成人期の患者とその家族の健康上の問題を理解し、問題を解決するための看護援助を主体的に考え、実践できる能力を養う。さらに、患者とその家族とともに、生活の自立や再構築を支援したり、生命の回復力を高めたり、QOLの向上をめざす看護を展開する。看護を展開していく中で、患者とその家族の個別性を理解し、変化に応じた看護援助のあり方を考え、看護を創造し発展できる力を養う。成人期の発達課題をふまえ、健康障害が患者のからだ、こころ、社会に及ぼす影響を理解できる。	
	母子看護学	小児看護学概論 子どもの最善の利益をめざした小児医療・看護の必要性や、看護師の役割について、小児看護の歴史的な変遷を含め理解する。子どもの発達段階の特徴の理解、支援に向けて活用できる理論について学ぶ。 また、健康障害、治療、療育環境が子供や家族に及ぼす影響を理解し、個人の特性・発達段階に応じた適切な看護援助を行うための知識や技術を学ぶ。 さらに、わが国の小児保健の現状と今後の課題についても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	専門実践分野	母子看護学	小児看護学援助論	<p>子どもの入院生活や地域での生活において、一人ひとりの子どもの権利を擁護し、発達段階に応じて、あるいは子どもや家族の置かれている状況に応じて、安全で安楽なケアを提供していくことが求められている。子ども・家族を支援していくにあたり、科学的根拠に裏付けされた看護実践能力の基礎となる援助方法を学ぶ。</p> <p>さらに、健康障害が子どもと家族の身体、こころ、生活、家族関係などに及ぼす影響を理解し、それらを最小限とするために必要な看護実践内容・評価の視点について学ぶ。また、健康障害をもちながらも、子どもが社会で生き生きと生活していくために、保健・医療・福祉・教育がどのように連携していけばよいのかについて学ぶ。</p>
			小児看護学実習	<p>子どもの成長・発達段階の特徴を理解した上で、個々の健康状態に応じて子どもと家族が、いきいきと生活できるように支援するための基礎的な力を養う。地域との連携を通して、子どもや家族に必要な社会資源とその活用方法を理解する。さらに、他職種を交えたチームにおける看護職の役割を考える。小児期に必要な基本的保育及び生活習慣の獲得を主体とした成長・発達への援助、健康の維持・増進への援助を学ぶ。</p> <p>さらに地域を巻き込んだ子育て支援について学ぶ。子どもや家族との相互作用を通して、自己の看護観を深める。</p>
			母性看護学概論	<p>母性看護の対象理解に必要な基本概念（セクシャリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ライフコースにおける移行など）および母性看護に必要な基礎理論（家族中心ケア、自己決定、愛着理論、母子相互作用など）について学ぶ。女性の健康とヒューマン・セクシャリティに関し、生涯発達の視点から基礎的な知識を学ぶ。女性のライフサイクルに沿った健康（健康課題）では、リプロダクティブヘルス/ライツの観点から健康支援について考える。また、ウイメンズヘルス・母子保健・医療・福祉の動向を理解し、歴史的変遷を踏まえ、現代の母子とその家族が置かれている現状を考察し、今後の母性看護について展望する。</p>
			母性看護学援助論	<p>妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある対象とその家族への援助の在り方について理解する。マタニティサイクルは、本来生理的な過程ではあるが、何らかの刺激で正常経過から逸脱するリスクをはらんだ時期である。また新たに子どもを迎える家族が発達する重要な移行過程であり、母子のみならず家族にとっての健康と幸福に向けての支援が必要である。これらのことを踏まえ、マタニティサイクルにある女性とその家族への看護ケアに必要な基本的知識・技術を学ぶ。ウェルネスの視点から看護ケアを考え、看護者としてふさわしい態度で技術提供ができるよう実践的な看護援助を学ぶ。</p>
			母性看護学実習	<p>母子およびその家族がよりよい健康生活を維持していくために必要な支援を実践するための基礎的な能力を身につけ、特に周産期にある女性と新生児を中心に、正常な生殖・発達過程をみつめることを通して健康課題を捉え、ウェルネスの視点から看護を考えることができる。周産期にある母子とその家族への理解を深め、母性看護に必要な知識、技術、態度を養う。また、対象者とその家族が子育てに安心して取り組めるよう、看護実践を行うと共に保健指導のあり方について学ぶ。周産期にある母児とその家族を取り巻く保健医療チーム（施設内外、社会資源を含む）の役割について理解することができる。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 地域包括支援分野 地域包括支援看護学	老年看護学概論	日本の高齢化が進行する中で老年看護学が生まれた経過を学ぶ。加齢の身体的・生理的・社会的特徴を理解し、高齢者とその家族が直面する介護の現状を学ぶ。高齢者の健康とQOLを高めるため、医療・福祉の社会資源や看護理論を学び、個別性の大きい高齢者の理解と、老年看護の目的・役割について学ぶ。 さらに、加齢によって起こってくる疾患・障がいの実際について学ぶ。それに伴う生活の変化について、高齢者本人や家族が希望する、生活の継続のための方法について学び、高齢者が安全に暮らせる環境を考える。	
	老年看護学援助論	老年看護は多様な価値観とそれを育んだ生活史を理解し個々の老年者が生の完成を図れるように人生の統合期をいかに支えていくかを理解する。医療的側面とこれまでの生活を関連付けながら、事例分析等の演習を中心に、健康障害をもつ高齢者の看護上の問題点を総合的に判断する。また、高齢者特有の心身の健康状態の変化に関する知識を正しく理解でき、生活に対応していくために、科学的根拠に基づいた高齢者看護の展開を学ぶ。 また、治療を必要とする高齢者の看護の実際や施設などの様々な暮らしの場での看護について理解する。高齢者の個別性について理解を深める。高齢者が人としての尊厳を保って、健康で安全に生き、人生の終末を迎えるための看護の役割と支援について学ぶ。	
	老年看護学実習	老年看護に必要な基礎的知識・技術を活用し、老化に伴う変化について諸側面から理解し、健康障害を持つ高齢者の健康を回復・維持する過程における援助について学ぶ。また、高齢者の人権と権利を擁護する態度を養い、自己の高齢者観と看護のあり方を考える。 高齢者を取り巻く社会と看護職の役割について理解できる。老年介護施設では、施設での看護を学び、病院、地域や施設職員との多職種との連携・協働を学ぶ。	
	精神看護学概論	精神障がい者のセルフケアに焦点をあて、対人関係技術や精神状態をアセスメントする技術を用いながらセルフケア援助する看護の一連のプロセスを学ぶ。精神看護学の目的、機能、対象となる人々および活動領域について理解する。精神の健康と障がいについて理解するための基本的な知識、すなわち、精神障がいのとらえ方、心のはたらきと人格の発達、危機介入とストレス理論、家族および集団について学ぶとともに、精神保健医療福祉の歴史の変遷と精神障がい者の人権・倫理について理解し、精神保健福祉法をはじめとする法制度を学習する。	
	精神看護学援助論	精神保健上の健康問題や障がいの特徴、治療方法などを理解したうえで、具体的な看護援助について学ぶことを目的とする。治療関係のなかで生じる対人関係、疾患や回復過程に応じた援助方法について学ぶ。さらに、病院での看護過程の展開方法について、ペーパーペーシェントを用いて、対象の様々な精神症状や心理社会的状況のアセスメントを行い、看護計画を立案する演習を行い、看護を実践するための基礎的な力を修得する。 また、社会復帰に向けた看護活動ならびに地域精神保健活動における精神障がい者および家族への支援の理論と実際についても理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 地域包括支援分野 地域包括支援看護学	精神看護学実習	精神保健上の健康問題をもつ対象者とその家族との「患者—援助者関係」を展開し、対象者および自己への理解を深める。さらに、実際にケアを行う中で、対象者への日常生活援助の実際に触れ、精神疾患をもつ人々の健康を回復する過程において、健康段階に応じた医療や看護の実際を学ぶ。地域での生活を支援する場における看護の役割を学び、患者の地域生活支援とサポートシステム、精神保健上の健康問題をもつ対象者の自立と社会参加の促進、様々な職種との連携、協働について学ぶ。	
	在宅看護学概論	生活の場で療養している人々とその家族を対象とした在宅看護について、その歩みをふまえて、社会背景や介護保険制度等の仕組みを理解する。また、在宅看護を実践する看護師の役割や機能について理解し、さらに、在宅ケアについて関係職種の連携より地域の保健医療福祉システムの特徴を学ぶ。健康現象だけでなく、人々の多様な価値観、QOL（生活の質）を重視し、セルフケア、自己決定の尊重という観点から在宅看護の特性を理解し、在宅看護における倫理について学ぶ。また、療養者と家族のQOL向上をめざした日常生活援助、リハビリテーションおよびターミナルケア、社会資源の活用等について理解する。	
	在宅看護学援助論	在宅で健康障害をもちながら療養する人々への日常生活援助の実際と在宅看護を展開するための具体的な方法について学ぶ。在宅看護を支える制度を理解し、訪問看護師と訪問看護ステーションの機能および役割について理解する。療養者と家族の豊かな在宅生活を実現させるための退院調整について理解し、在宅生活に向けての切れ目のない看護の展開過程を学ぶ。さらに、在宅での看護過程を理解し、ケアマネジメントおよび在宅ケアシステムと看護の役割について学ぶ。	
	在宅看護学実習	病院から地域社会への看護の継続性と連携について理解を深め、在宅で生活する様々な健康レベルにある人びとへの看護活動を理解し、看護実践能力の基盤を養う。また、対象の特性に合わせた看護の方法・技術、地域ケアシステムについて理解し、在宅看護活動を実践するための基本的技術を養う。同時に、健康の保持・増進に向けてヘルスニーズを充たすための在宅看護の専門的活動方法を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	地域包括支援看護学	地域連携・協働支援論	<p>地域で生活する人々の健康と生活を支えるための保健行政施策と看護者の役割について理解する。人々の健康と生活を支えるための社会資源とその活用について理解する。また、様々な人や組織が連携・協働して地域ケアシステムを構築していることを理解し、地域ケアシステム構築の意義とそこに関わる看護者の役割について学ぶ。さらに、現在の地域看護政策の実際と看護サービス提供との関連を理解し、効果的な地域看護実践のため、どのように政策・施策に関わるべきか考察する。人々が安全、安心して生きていくためには、地域社会でのあらゆる職種との連携を図るサポートシステムが重要である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)                      (① 近田敬子 (コーディネーター) / 1回)                      「地域連携・協働支援論」のオリエンテーションを行い、地域連携・協働概念について本科目における導入を行う。また、コーディネーターとして学生の評点を行う。                      (④ 小野晴子 / 3回) 病院から地域社会への看護の継続性と連携・協働について学ぶ。                      (⑩ 高田美子 / 3回) 地域の中で、高齢者とその家族が直面する看護、介護の現状をしり、本人や家族が希望する生活を継続させるための看護の連携・協働を学ぶ。                      (⑦ 矢倉紀子 / 3回) 精神保健上の健康問題や障がいをもつ対象者とその家族が希望する生活が継続出来るための地域生活支援とサポートシステムのあり方を学ぶ。                      (⑫ 梅津靖江 / 3回) 地域における在宅看護のあり方やその現状、健康をささえるための地域ケアシステムの構築について学ぶ。                      (① 近田敬子 / 2回) 地域看護政策の実際と看護サービス提供との関連を理解し、効果的な地域看護実践のため、どのように政策・施策に関わるべきか考察する。</p>	オムニバス方式
		地域連携・協働実習	<p>地区踏査、健康統計資料の読解・分析、および関係機関訪問を通して、施設や機関の地域に果たしている役割、および社会システムの中での場の理解の方法を習得する。また、保健・医療・福祉施設の機能と役割について学び、対象者が生活する場で生活が維持できるための具体的な援助方法としての連携、協働のあり方について考えることができる。</p>	
		地域密着型サービス実習	<p>要介護者の住み慣れた地域での生活を支えるため、身近な市町村で提供されることが適当なサービス類型として創設された地域密着型サービスの機能・役割を理解する。さらに、利用者の生活圏域で、地域で暮らすさまざまな健康レベルの人びとを地域の社会的条件下で多面的・総合的に理解する力を培う。また、利用者の健康ニーズの把握の方法を学び、QOLの向上にむけた健康問題への援助ができる能力と態度を養い、今後のウェルネス社会の実現について学ぶ。</p>	
		地域の保健室論	<p>近年、高齢社会の健康課題は勿論のこと、介護問題・青少年の生活リズムや食習慣の乱れ・女性の健康問題等が、複雑且つ深刻化している。健康ニーズの多様化や「よりよく生きる」ための関心の高まりに対して、人々の主体的な地域健康づくりが重要になっている。そこで、この多様な健康・生活ニーズに柔軟に対応するため、地域において連携・協働を軸にした保健室を創設することの意味・意義を考える。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	地域包括支援分野	地域包括支援看護学	公衆衛生看護活動の多様な場とその内容について理解し、保健師はその幅広い分野で看護活動を展開していることを理解する。また、公衆衛生看護活動は根拠法令に基づいていることを理解し、人々の健康・生活を支えるための法令の意義や内容について理解する。 さらに公衆衛生看護活動においてヘルスケアチームで取り組む意義を理解し、チーム内での保健師の役割を考察する。
		疫学	人体における生命現象と疫病のかかわりあいを医学的な知識の集積をとおして知るために、自然・社会的環境の中で人間の集団の健康に影響を与える各種の要因を理解する。本講義では、基本的な疫学の手法として、集団とその集団を構成する人々の健康に関する事象に関し、そのアプローチの方法、評価について予防医学の面から理解し、健康の保持増進、疾病予防に活かすための方策を学ぶ。疫学調査および衛生統計学的手法を用いて、健康と自然的、社会的環境との因果関係を明らかにする方法を理解する。さらに、国民衛生の動向など、既存の資料を読み解き、国家試験に備える。
	看護統合分野	看護活動と研究	看護研究における研究の意義・目的と看護研究の一般的な進め方を理解する。 さらに看護研究を進めるための文献クリティークの必要性和方法がわかる。 倫理的問題の歴史から研究に求められる対象者の権利擁護の観点を理解し、倫理的な研究計画、実践について考察する。 現場の看護をよりよくしようと試みる探求心をもった看護者になるための基礎的な知識・態度を習得する。
看護学統合研究		看護研究法に関する学びをもとに、将来にわたって看護研究に関心を深めることができるように研究的態度と姿勢を習得することを目的とする。 ゼミナール形式で行い、経験値統合実習での実践を、主体的に問題意識をもちながら追求し、研究としてまとめる。研究テーマを定め、文献検討を行って研究計画書を作成するところから始め、実践結果の分析、論文作成に至るまでのプロセスを体得する。この体験を通して研究的視点の必要性を理解し、達成感を得るとともに、他者と討論することで看護に対する視野を広げ、自分の看護観を明らかにしていく。	
		家族看護学	家族の定義、家族を特徴づけるもの、多様な家族像について教授し、家族を支援する専門職としての視点を養う。 家族の基本概念（家族の構造・機能、家族の発達段階、家族システム）と家族看護の基礎となる理論、家族アセスメントと家族介入の方法について理解し、家族の特性別に具体的な事例を通して家族看護の実際について学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 看護統合分野 看護の統合と実践	看護管理学	看護専門職に必要な管理論や組織論、組織行動論に関する基本的な知識や技術を習得することを目的とする。それらを学ぶことで、保健・医療・福祉の場で看護専門職が力を発揮していくための考え方を養う。また、看護専門職がよりよい実践をするためには、セルフマネジメントやキャリアマネジメントを活かした看護実践が看護組織に貢献することを理解する。さらに、看護活動が展開されている地域、保健・医療・福祉施設、行政などのシステムを中心に、様々なシステムの学習をとおして看護システムを発展、変革させる基本的な知識や技術の習得をめざす。	共同
	看護教育学	教育実践や研究から生まれた看護教育学の基盤となる概念を取り上げ、学習者がどのような発達課題を持ち、何を大切にすべきなのかというアイデンティティのこと、クリティカルシンキング、リフレクション、キャリアマネジメントを学ぶ。さらに看護専門職として成長し続ける姿勢を養う。 また、学習者自らが実習等で実施してきた教育活動を振り返りかえる。看護における教育活動の本質とその方法に関する概要を把握する。我が国の看護基礎教育の変遷と法的基盤・制度を社会的背景と併せて学習する。これらから、看護基礎教育ならびに継続教育の現状と課題を理解するとともに、動向を踏まえつつ展望する。	
	リスクマネジメント論	医療安全対策についての総論的概要を理解する。法的根拠および「看護者の倫理綱領」から看護者の役割と機能はなんであるかを理解し、事故予防と対策についての知識を習得する。看護職の仕事の特徴や期待される役割を認識し、事故防止、または事故が発生しても迅速に対応できる環境作りとは何かを学ぶ。法的根拠の視点および専門職能人としての倫理観に基づく看護職のあり方、システム作りを理解する。	
	リフレクション論と実践	リフレクションの概要を把握し、その過程を実際の体験とつなげて学ぶ。 基盤看護学実習における学生の体験を題材とし、「一人の看護者として」他者に向き合う自己を振り返り、自己を理解するとともに、ケアを受ける人の価値観、ニーズを尊重することの必要性と重要性を理解する。 学生自らが、自分のコミュニケーションや観察の技術を振り返り、自己の課題と目標を明確にしていくことで実践する力の向上をめざすとともに、自分の経験を客観的に見直す思考を養う。	
	生活リハビリテーション論	リハビリテーションを人の生活支援のための技術と捉え、時代とともに変化する生活支援や自立への支援としてリハビリテーションを幅広い概念として考えることの必要性を身につける。さらに基礎的なリハビリテーション技術や知識を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護統合分野	看護の統合と実践	災害看護論 被災者の生命、健康、生活を支えるための災害看護の基本的な知識や技術について理解し災害看護活動ができる基盤を培うとともに、発災直後のクリティカルな支援からコミュニティ復興までの長期にわたる経時的対応能力を養う。また、災害が起こったとき看護者としてどのように対応するべきか、その判断能力や責任感など倫理的態度を育成する。災害に備えた保健医療システムの構築、災害時に様々な専門職種やボランティアとの連携から成り立つサポートシステムおよび国際的な視野をもった支援システムのあり方についても学習する。
			国際看護論 グローバルな視点で世界における著しい健康上の格差と健康問題を理解し、国際看護の必要性を理解する。また、異なる文化背景を持つ人々のコミュニケーション、日常生活、食事、価値観などについて理解し、分析する。さらに、プライマリ・ヘルスケア（PHC）を基盤にした国際看護の対象や方法を理解し、文化の異なる国における国際看護実践について考察する。
			看護総合 看護を必要とする場にスムーズに適応できるように、これまでに学習した内容の知識と技術をすべて統合する。そして、チーム医療における他職種間の協働のあり方を探求し、看護の専門性を追求する。また、研究的態度と姿勢を身につけてく。 さらに、大学卒業までに学生が最低限身に着けなければならない能力「学士力」の確保のため、知識・理解（文化、社会、自然など）、汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力など）、態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任など、）総合的な学習経験と創造的思考力を育成する。
			看護学統合実習 これまでの看護実践経験から芽生えた問題意識を研究的な過程に乗せて、自らの課題を追求し、深めることを目的とする。 学生は自分の関心のある分野を、専門支持分野、専門実践分野、地域包括支援分野の中から一つ選択する。選択した分野の領域において、これまでに学んだ知識、技術、態度を統合しながら事例を対象とした看護実践を展開する。実習場所及び対象となる事例は自らのテーマに合わせて選択し、実習終了後に研究としてまとめ上げることを念頭に置きながら、実践したことを記録する。
保健師教育分野	公衆衛生看護学	保健統計学 本講義では、看護の実践家として、または研究者として不可欠な統計学の知識について、基礎から応用まで幅広く習得することを目的としている。 臨床や地域看護の現場では、一連の思考や業務の過程を通して、看護が実践されており、その過程において、様々な情報を検索・蓄積・分析・伝達していくことが必須である。情報科学の医療・看護への応用や医療情報システムを理解し、その中で看護の位置づけを知ることが目標とし、臨床看護、地域看護や看護研究等で扱われるデータの基本的な処理方法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 分 野	保 健 師 教 育 分 野	公 衆 衛 生 看 護 学	学校保健 学校保健安全法に対応した学校教育における専門職の役割を学ぶ。ヘルスプロモーションの視点と学校教育における子どもの健康の保持増進を図るための学校保健の構造とその領域について学ぶことを目的とする。 学校保健における保健教育面と保健管理面、そして学校保健組織活動について実践的内容について理解を深める。特に、ヘルスプロモーションの視点と現代の子どもに関する教育現場の実態を具体的に提起、展望する。
			産業保健 事業場、職域における健康支援・管理、作業管理、作業環境管理、マネジメントシステムなどから労働と健康問題を学ぶ。 産業の場で働く人々を対象とし、労働と健康問題・健康の確保、作業関連疾患、労働環境、労働衛生管理体制・組織、リスクマネジメント・労働安全衛生マネジメントシステム等について概観する。また、保健指導・健康相談、心と身体の健康づくり・心理相談などに関するサポートのあり方等産業保健・看護の基本的な視点と支援方法について学ぶ。
			公衆衛生看護活動展開論Ⅰ 地域住民および集団とそれを取り巻く環境を包括的に捉え、地域の健康状況とその把握についての方法論、資料の活用方法、集団を対象とした事象の理解を図る。実際に、地域の資料等から地域診断を実施（グループワーク含む）する。その際、地域の情報収集からアセスメント、健康課題の特定、地域看護活動計画の立案、実施、評価につなげるプロセスを意識し、多様なニーズを有する地域の人びとに対する有効な公衆衛生看護活動・支援策と医療・福祉との連携の視点についても学ぶ。様々な人や組織が連携・協働して地域ケアシステムを構築していることを理解し、地域ケアシステム構築の意義とそこに関わる看護者の役割について学ぶ。
			公衆衛生看護活動展開論Ⅱ 地域で生活する人々の健康と生活を守るため、予防の視点を持ち、住民が主体となって行動変容できることをめざす公衆衛生看護活動の理論と具体的方法について学ぶ。公衆衛生看護活動の技法・技術として、健康相談、健康教育・学習、家庭訪問指導、グループ支援と地区組織活動を理解する。また、地域診断に基づく計画・実践・評価の一連の過程を理解したうえで、対象（個人・集団・地域）の特性に応じた保健師の行う保健指導の意義と機能について理解する。 保健師に必要な調整能力、政策形成能力、地域管理能力についても考察する。
			公衆衛生看護管理論 地域で生活する人々の健康課題を見出し、住民が主体的に健康課題解決の過程を踏むことができるよう、関係機関等と協働してコミュニティの力量形成を図ることをめざす保健師の役割を考察する。そのために、公衆衛生における看護管理の機能及び課題を理解する。さらに、健康危機管理や災害の管理、健康づくりに関する施策化における保健師の専門性の発揮とマネジメントについて、演習を通じて考察する。

授 業 科 目 の 概 要					
（看護学部看護学科）					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	保健師教育分野	公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動展開論実習	地域看護基礎学、公衆衛生学、保健統計学、地域連携支援看護論、疫学、社会福祉・社会保障論で学んだ知識を活用した実習とする。臨地実習は、地域で生活する様々な健康レベルにある高齢者への地域包括ケアシステムを理解し、高齢者保健分野における看護実践能力の基盤を養うために、市町村で行う。市町村の機能を理解し、専門職の役割分担と看護職の役割、利用者の特性を理解する。さらに地域包括支援センター内外との連携・協働の実際から、地域の高齢者等への包括的継続的ケアについて理解する。	
			公衆衛生看護管理論実習	公衆衛生看護学、疫学、保健統計学および保健福祉行政論で学んだ知識を活用した実習とする。臨地実習は保健所、保健センターを必須とし、医療保険者としての市町村など多様な場で実習を行う。地域で生活する様々な健康レベルにある人びとへの看護活動を理解し、看護実践能力の基盤を養う。対象の特性に合わせた看護の方法・技術、地域ケアシステムについて理解し、公衆衛生看護活動を実践するための基本的技術を養う。同時に、健康の保持・増進に向けて、地域診断に基づき、地域のヘルスニーズを充たすための公衆衛生看護の専門的活動方法を理解する。	